

山形県酒田市 『持続可能なおもてなし』へ意欲満々

山形県の酒田港に寄港する外国クルーズ船が増加傾向にある。地域挙げての「おもてなし」が観光客に好評で、盛り上がりを生かして今後、一層の誘致促進に力を入れていく。

9月30日。英国船籍の「ダイヤモンド・プリンセス」が酒田港に入港。乗客が次々と下船し、シャトルバスやタクシーなどで酒田市の市街地や庄内地域の観光地などに向かった。ふ頭には臨時の観光案内所や、地元の特産品などを売る店が並び、酒田舞娘(まいこ)や花笠音頭といった多彩なアトラクションが繰り広げられた。

酒田市の中心商店街では、地元の人たちが「おもてなし」を繰り広げた。高校生による抹茶の提供、小学生による観光スポットの案内、甲冑や和服の着用体験などが好評で、笑顔の交流の輪が広がった。

市内の観光スポットにも、多くの観光客の姿が。山居倉庫を改修した観光物産館「酒田夢の倶楽」では、酒田が舞台の一つで世界的人気のテレビドラマ「おしん」の写真展が行われており、それにちなんで「おしん」が劇中で食べた「大根めし」を来館者に振る舞った。

酒田港への外国クルーズ船の寄港は今年5回。初めて寄港した2017年は1回、18年は3回で、来年は現段階で6回の寄港が予定されている。21年4月には、最上級のラグジュアリークラスの船が来る予定で、毎年のように新しい船の来港が決まっている。こうした背景には、訪れた観光客の高い満足度がある。

寄港地決定権を持つ会社の幹部は、山形県庁を訪れた際「日本の寄港地で酒田は5本の指に入る高評価を得ている」と語った。山形県の魅力的な観光資源に加え、地元の人たちとのふれ合いや、さまざまな体験が、外国人観光客のハートをつかんでいるようだ。県インバウンド・国際交流推進課は「国、県、地元自治体、民間が一丸となって一層の誘致促進を図るとともに、また訪れてみたくなるような『持続可能なおもてなし』を繰り広げていきたい」と話している。

山形新聞社 広告局企画開発部副部長 戸村 篤



国、県、地元自治体、民間が一丸となって『持続可能なおもてなし』を繰り広げる